

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第2版

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会監修

診療ガイドライン委員会（委員長：辻哲也 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室・准教授）、脳性麻痺リハビリテーションガイドライン策定委員会（委員長：高橋秀寿 埼玉医科大学国際医療センター運動・呼吸器リハビリテーション科・教授）

金原出版、2014年1月24日 第2版発行

### ■1 六君子湯

疾患：

消化器障害

有効性に関する記載ないしその要約：

脳性麻痺の合併症と治療の項の『イレウスなど、消化器障害に対する対応は？』に対して、解説の中に下記の記載がある。

『GRED に対する対応は、北住が重度脳性麻痺児に関する論文によくまとめている。それによると姿勢管理や H2 ブロッカー、プロトンポンプ阻害剤、六君子湯などの内服治療を行い、改善が得られない場合、呼吸状態や全身状態の悪化を来す前に手術が必要である。』